

平成 22 年 度

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

東 部 ・ 西 部 施 設 事 業 概 要



光 和 寮
(障害者支援施設)

ガイドネットあいさぽーと
かわな・やすだ
デイサービスセンター クリエイト川名

港ワークキャンパス
(多機能型事業所)
み な と

明 和 寮
(障害者支援施設)

みなとガイドネット
黎明荘・あかり
港区障害者地域生活支援センター
地域活動支援センター あちゅっとほーむ
わくわくキッズ

就労移行支援事業<名古屋東ジョブトレーニングセンター>
就労継続支援事業 B 型
生活介護事業
施設入所支援
居宅介護等・移動支援事業
福祉ホーム
地域活動支援事業

就労継続支援事業 A 型<ライトハウス名古屋金属工場>
就労継続支援事業 B 型<KAN 食品開発センター>
福祉ホーム

就労移行支援事業<港ジョブトレーニングセンター>
就労継続支援事業 B 型<ビーサポート>
生活介護事業<ぷちとまと>
施設入所支援
居宅介護等・移動支援事業
福祉ホーム
指定(委託)相談支援事業<Kira らぽーと>
地域活動支援事業
児童デイサービス

目 次

I	施設のあらまし・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1.	施設の規模	
2.	定 員	
II	施設利用者概要 ～利用者の現状～ ・・・・・・・・	3
1.	光和寮	
2.	ガイドネットあいさぽーと	
3.	かわな	
4.	やすだ	
5.	デイサービスセンター クリエイト川名	
6.	港ワークキャンパス	
7.	みなと	
8.	明和寮	
9.	みなとガイドネット	
10.	黎明荘	
11.	あかり	
12.	港区障害者地域生活支援センター	
13.	地域活動支援センター あちえっとほーむ	
14.	わくわくキッズ	
III	就労活動の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	11
1.	光和寮	
	（1）就労時間（2）年間売り上げの推移（3）平均工賃の推移	
2.	港ワークキャンパス	
	（1）就労時間（2）年間売り上げの推移（3）平均工賃の推移	
3.	明和寮	
	（1）就労時間（2）年間売り上げの推移（3）平均工賃の推移	
IV	各事業所の状況・・・・・・・・・・・・・・・・	13
1.	光和寮	
2.	ガイドネットあいさぽーと	
3.	かわな	
4.	やすだ	
5.	デイサービスセンター クリエイト川名	
6.	港ワークキャンパス	
7.	みなと	
8.	明和寮	

9. みなとガイドネット

10. 黎明荘・あかり

11. 港区障害者地域生活支援センター

12. 地域活動支援センター あちえっとほーむ

13. わくわくキッズ

V その他の活動について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

1. 東部施設

2. 西部施設

VI 名古屋ライトハウスの沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

I 施設のあらまし

1. 施設の規模

東部施設

	敷地面積	建 物 面 積		
		管理・生活部門	作業部門	合 計
光和寮	1,802.35 m ²	1,358.15 m ²	1,456.99 m ²	2,815.14 m ²
クリエイト川名	光和寮敷地内	79.11 m ²	—	79.11 m ²
か わ な	316.50 m ²	623.78 m ²	—	623.78 m ²
や す だ	光和寮敷地内	307.44 m ²	—	307.44 m ²
あいさぽーと	光和寮敷地内	光和寮事務所内	—	—

西部施設

		敷地面積	建 物 面 積		
			管理・生活部門	作業・倉庫部門	合 計
港ワーク キャンパス	入居棟・作業棟	2,941 m ² (市有地)	1,121.41 m ²	3,665.94 m ²	4,787.35 m ²
	第二工場	330.57 m ²	—	280.24 m ²	280.24 m ²
	寛政町倉庫	556.59 m ²	—	318.96 m ²	318.96 m ²
み な と		港ワーク敷地内	和室 14.58 m ² 洋室 16.56 m ²	—	—
明 和 寮		7,068 m ² (市有地)	2,867.59 m ²	1,279.60 m ²	4,147.19 m ²
みなとガイドネット		明和寮敷地内	43.92 m ²	—	—
黎 明 荘		明和寮敷地内	291.60 m ²	—	—
あ か り		明和寮敷地内	和室 20.00 m ² 洋室 20.00 m ²	—	—
港区障害者地域生活支援センター		賃貸物件	55.43 m ²	—	55.43 m ²
あちえっとほーむ		賃貸物件	113.11 m ²	—	113.11 m ²
わくわくキッズ		(2事業同一敷地)	81.86 m ²	—	81.86 m ²

2. 利用者の定員

光和寮

○就労移行支援事業＜名古屋東ジョブトレーニングセンター＞	18名
○就労継続支援事業B型	80名
○生活介護事業	20名
○施設入所支援	(17室) 32名

かわな

○福祉ホーム	(内世帯用居室1戸) 15名
--------	----------------

やすだ

○福祉ホーム	11名
--------	-----

デイサービスセンター クリエイト川名

○地域活動支援事業	19名
-----------	-----

港ワークキャンパス

○就労継続支援事業A型＜ライトハウス名古屋金属工場＞	60名
○就労継続支援事業B型＜KAN食品開発センター＞	20名

みなと

○福祉ホーム	(20戸) 20名
--------	-----------

明和寮

○就労移行支援事業＜港ジョブトレーニングセンター＞	15名
○就労継続支援事業B型＜ビーサポート＞	100名
○生活介護事業＜ぷちとまと＞	20名
○施設入所支援	(23室) 40名

黎明荘

○福祉ホーム	(5戸) 10名
--------	----------

あかり

○福祉ホーム	(17戸) 20名
--------	-----------

地域活動支援センター あちえっとほーむ

○地域活動支援事業	19名
-----------	-----

わくわくキッズ

○児童デイサービス	10名
-----------	-----

Ⅱ 施設利用者概要

～利用者の現状～

※単位はすべて（ 名）

1. 光和寮

○就労移行支援事業＜名古屋東ジョブトレーニングセンター＞

①入退所状況

	期 首		年度内		期 末		定 員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(3)	10	14	9	14	(0)	—
女	(1)	2	6	1	8	(1)	—
計	(4)	12	20	10	22	(1)	18

※入退所状況の表について

4月 1日（以下 期首）入所者は期首在籍者に含み、年度内入所者には含まない。

3月31日（以下 期末）退所者は期末在籍者に含み、年度内退所者には含まない。

（以下同種の表についても同様）

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	2	0	0	17	3	22
重複障害	1	0	0	1	0	—
合 計	2	0	0	17	3	—

※3月31日現在 重複障害については再掲（以下同種の表についても同様）

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
13	4	2	3	0	0	22

※3月31日現在（以下同種の表についても同様）

○就労継続支援事業B型

①入退所状況

	期 首		年度内		期 末		定 員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(1)	52	5	2	55	(0)	—
女	(1)	23	2	2	23	(0)	—
計	(2)	75	7	4	78	(0)	80

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	35	35	1	7	0	78
重複障害	1	0	0	0	0	—
合 計	35	35	1	7	0	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	10	13	16	29	10	78

○生活介護事業

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	16	10	0	5	0	29
重複障害	2	0	0	3	0	—
合 計	18	10	0	8	0	—

②障害程度区分

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	4	9	7	6	3	29

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
3	0	4	6	6	10	29

○施設入所支援

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	12	8	1	0	0	21
重複障害	3	1	1	0	0	—
合 計	15	9	2	0	0	—

②障害程度区分

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	7	12	2	0	0	21

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	2	2	5	11	1	21

2. ガイドネットあいさぽーと

○居宅介護等・移動支援事業

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	39	1	0	0	0	40
重複障害	3	0	0	0	0	—
合 計	42	1	0	0	0	—

②障害程度区分（利用には必要なし）

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合 計
38	0	0	0	1	1	0	40

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
3	2	4	5	15	11	40

3. かわな

○福祉ホーム

①入退所状況

	期 首		年度内		期 末		定 員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(0)	8	3	3	8	(0)	—
女	(0)	3	1	1	3	(0)	—
計	(0)	11	4	4	11	(0)	15

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	2	9	0	0	0	11
重複障害	0	0	0	0	0	—
合 計	2	9	0	0	0	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	0	1	3	6	1	11

4. やすだ

○福祉ホーム

①入退所状況

	期 首		年度内		期 末		定 員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(0)	8	1	1	6	(0)	—
女	(0)	0	1	0	3	(0)	—
計	(0)	8	2	1	9	(0)	11

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	4	5	0	0	0	9
重複障害	0	0	0	0	0	—
合 計	4	5	0	0	0	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	2	1	2	3	1	9

5. デイサービスセンター クリエイト川名

○地域活動支援事業

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	27	0	0	0	0	27
重複障害	0	0	0	0	0	—
合 計	0	0	0	0	0	—

②障害程度区分（利用には必要なし）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合 計
4	0	17	5	1	0	0	27

③年齢構成

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
0	0	3	0	4	20	27

6. 港ワークキャンパス

○就労継続支援事業A型<ライトハウス名古屋金属工場>

①入退所状況

性別	期 首		年度内		期 末		定 員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(0)	53	15	8	60	(1)	—
女	(0)	1	1	0	2	(1)	—
計	(0)	54	16	8	62	(2)	60

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	6	29	3	19	5	62
重複障害	1	0	0	0	1	—
合 計	7	29	3	19	6	—

③年齢構成

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
0	12	10	15	18	7	62

○就労継続支援事業B型<KAN食品開発センター>

①入退所状況

性別	期 首		年度内		期 末		定 員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(1)	8	5	1	12	(0)	—
女	(1)	7	1	0	8	(0)	—
計	(2)	15	6	1	20	(0)	20

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	4	7	2	4	3	20
重複障害	0	0	0	3	0	—
合 計	4	7	2	7	3	—

③年齢構成

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
2	3	6	2	3	4	20

7. みなと

○福祉ホーム

①入退所状況

性別	期 首		年度内		期 末		定 員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(2)	17	1	3	15	(0)	—
女	(0)	0	0	0	0	(0)	—
計	(2)	17	1	3	15	(0)	20

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	4	10	0	1	0	15
重複障害	2	0	0	0	1	—
合 計	6	10	0	1	1	—

③年齢構成

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
0	1	2	4	3	5	15

8. 明和寮

○就労移行支援＜港ジョブトレーニングセンター＞

①入退所状況

	期 首		年度内		期 末		定 員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(1)	18	7	9	16	(1)	—
女	(0)	3	2	3	2	(0)	—
計	(1)	21	9	12	18	(1)	15

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	0	0	1	13	4	18
重複障害	1	0	0	0	0	—
合 計	1	0	1	13	4	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
5	8	2	1	2	0	18

○就労継続B型＜ビーサポート＞

①入退所状況

	期 首		年度内		期 末		定 員
	入所者	在籍者	入所者	退所者	在籍者	退所者	
男	(2)	88	5	7	86	(0)	—
女	(0)	20	0	0	20	(0)	—
計	(0)	108	5	7	106	(0)	100

②障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	16	75	1	7	7	106
重複障害	0	0	0	11	5	—
合 計	16	75	1	18	12	—

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
0	5	14	26	31	30	106

○生活介護事業＜ぷちとまと＞

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	1	12	0	3	2	18
重複障害	1	6	0	1	1	—
合 計	2	18	0	4	3	—

②障害程度区分

未判定	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
0	0	0	3	4	2	9	18

③年齢構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
2	6	4	1	3	2	18

○施設入所支援

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	9	24	0	0	0	33
重複障害	0	0	0	4	1	—
合 計	9	24	0	4	1	—

②障害程度区分

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
0	2	11	13	4	3	0	33

③年齢構成

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
0	0	4	6	13	10	33

9. みなとガイドネット

○居宅介護等・移動支援事業

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	22	27	0	2	0	51
重複障害	2	1	0	1	0	—
合 計	24	28	0	3	0	—

②障害程度区分（移動支援事業は含まれない）

未判定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
0	1	1	3	4	4	9	22

③年齢構成

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
5	2	0	8	8	28	51

10. 黎明荘

○福祉ホーム

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	1	4	0	0	0	5
重複障害	0	0	0	0	0	0
合 計	1	4	0	0	0	5

②年齢構成

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
0	0	0	1	3	1	5

1 1. あかり

○福祉ホーム

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	0	15	0	0	0	15
重複障害	0	0	0	2	1	—
合 計	0	15	0	2	1	—

②年齢構成

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
0	0	0	5	4	6	15

1 2. 港区障害者地域生活支援センター

○指定（委託）相談支援事業＜K i r aらぽーと＞

①障害種別状況

	相談者数	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他
障害者	339	203	4	116	33	2	7	8
障害児	54	16	4	38	2	2	0	0
合計	393	219	8	154	35	4	7	8

1 3. 地域活動支援センター あちえっとほーむ

○地域活動支援事業

①障害種別状況

	視覚障害	肢体障害	他身体障害	知的障害	精神障害	合 計
障害種別	10	54	3	18	5	90
重複障害	4	9	3	2	0	—
合 計	14	63	6	20	5	—

②年齢構成

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
0	7	18	13	16	36	90

1 4. わくわくキッズ

○児童デイサービス

①障害種別状況

肢体＋知的障害	視覚＋肢体＋知的障害	知的障害	合計
16	2	14	32

Ⅲ 就労活動の概要

1. 光和寮

○就労継続支援事業B型

(1) 就業時間

年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
1, 718時間	111日及び誕生日休暇	7時間

就労時間 8時30分～16時50分

休憩時間 ①10時00分～10時10分

②12時00分～13時00分（昼食）

③15時00分～15時10分

(2) 年間売上高の推移

単位（ 千円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
年間売上合計	101,459	115,588	68,764	68,773	69,674

(3) 平均工賃の推移

単位（ 円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
最高工賃	191,040	332,223	298,867	247,140	290,892
最低工賃	12,360	12,301	8,930	8,581	7,190
平均工賃	51,856	55,324	50,470	50,537	46,056

2. 港ワークキャンパス

○就労継続支援事業A型<ライトハウス名古屋金属工場>

(1) 就業時間

年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
1, 524時間	111日及び 誕生日休暇	6時間

就労時間 8時20分～15時20分

休憩時間 10時10分～10時20分

早番：12時00分～12時50分（昼食）

遅番：12時30分～13時20分（昼食）

(2) 年間売上高の推移

単位（ 千円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
年間売上合計	630,730	669,705	391,634	242,625	267,406

(3) 平均工賃の推移

単位（ 円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
最高工賃	314,538	299,181	298,864	255,497	239,990
最低工賃	55,860	60,707	55,967	51,717	49,158
平均工賃	103,802	117,371	116,761	102,963	100,515

○就労継続支援事業B型＜KAN 食品開発センター＞

(1) 就業時間

年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
1, 265時間	112日	5時間

就労時間 9時00分～15時00分

休憩時間 12時30分～13時20分（昼食）

※その他、作業の間に適宜休憩

(2) 年間売上高の推移

単位（ 千円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
年間売上合計	33,827	55,596	73,757	64,579	61,783

(3) 平均工賃の推移

単位（ 円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
最高工賃	50,520	74,403	107,730	60,187	59,907
最低工賃	13,560	38,160	15,574	23,604	18,997
平均工賃	26,634	35,383	54,881	38,921	39,111

3. 明和寮

○就労継続支援事業B型＜ビーサポート＞

(1) 就業時間

年間就業時間	年間休日	1日の就業時間
1, 595時間30分	112日	6時間30分

就労時間 8時35分～16時35分

休憩時間 ①10時05分～10時20分

②11時50分～12時50分（昼食）早番

②12時20分～13時20分（昼食）遅番

③14時50分～15時05分

(2) 年間売上高の推移

単位（ 千円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
年間売上合計	168,422	227,282	219,426	191,730	200,061

(3) 平均工賃の推移

単位（ 円）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
最高工賃	244,400	244,400	179,424	161,461	139,996
最低工賃	14,650	14,650	14,219	9,968	13,350
平均工賃	42,121	42,121	44,856	37,709	42,393

IV 各事業所の状況

1. 光和寮

○就労移行支援事業＜名古屋東ジョブトレーニングセンター＞

一般就労を目指している障害のある方を対象に一定期間(2年間)、働く為に必要な知識と能力を高めるトレーニングを行っている。また、企業における実習の実施、適性に合った職場探しや就労後も安定して働き続けられるよう支援をしている。

■定 員 18名

■利 用 期 限 最長2年

■利 用 対 象 者

☐各種手帳所持者。

☐働く意欲や意思があり、職業訓練を受けることにより就労が見込める方。

☐自力通所が可能で基本的な身の回りの事が出来る方。

■支 援 内 容

☐働く為に必要な力を習得する為のトレーニング

・教材を使って個々の作業能力の向上を図るだけでなく、職場内のマナーやルール、身だしなみ、コミュニケーションスキル（挨拶、返事、報告、質問）などの習得。

☐適性に合った職場探しや就労後の職場定着

・障害特性、能力を把握した上で就職活動を行い、ハローワーク、就職面接への同行。履歴書の書き方、面接練習など。

・就職後も定期的に職場訪問を行い、安定就労、長期就労が出来るよう支援。

■就 職 者 数 8名(22年度)

23年度は8月現在で8名(1名のトライアル雇用を含む)の方が一般就労している。しかし、早く就労させることが目的ではなく、そこで長く定着して働けることが重要になる為、開所して4年目を迎えた今、継続就労の大変さを感じている。

また、様々な障害に対応できるよう、訓練内容を充実させ、現実に即したトレーニングを目指し、一般企業での職場体験実習も積極的に取り入れていく等、今後も各関係機関と連携をとりながら障害のある方の「はたらく」を支えていきたいと考えている。



○就労継続支援事業 B 型

(1) 治療院

名古屋ライトハウス創設以来の伝統ある職場で、鍼・あんまマッサージ指圧師等の資格を持った方々に働く場を提供している。また、盲学校卒業者に対し、一般社会へ出る前の訓練が出来る仕組みを作りつつある。

営業時間は午前9時半から午後7時半で、現在は8名の方が利用している。

また、仕事時間は早番で午前8時半から午後5時20分、遅番では午前11時から午後7時半となっている。

国家資格のあんまマッサージ指圧師および、はり師が施術にあたっている。

施術については、30分・60分・90分コースなどのほかに鍼コース・フルコース（マッサージと鍼）などがある。

施術用ベッドは12台あり、広々とした治療室になっている。

鍼治療には使い捨て（ディスポ）の鍼を使用しており、安全面においても配慮している。また、受付(電話・窓口)や会計、施術ベッドの整備なども業務のひとつと位置づけているため、利用者の大事な業務のひとつとなっている。

ライトハウス治療院では、接客や治療室のセッティングも就労支援と考えており、治療技術のみではなく、全体的な向上を考えている。

受付は利用者と職員の2名で行い、受付業務がスムーズに行くように配慮している。

利用者の方々が休憩できるように控え室には机と椅子が設置してある。



(2) デザインプリント科

平成22年度よりデザインプリント科と録音速記科を統合し印刷科として一新された。光和寮の印刷事業は昭和40年に活版印刷部門として、録音速記事業は昭和51年に盲人用カナタイプ講習会として創業しそれぞれ長い歴史を持つ。録音速記については、別名テープ起こしと呼ばれ講演・会議・座談などで録音された人の言葉を聴き取り、その内容を文章に直す作業である。現在は時代の流れと共にそれぞれ形を変えて事業を行っており、活版印刷から始まった印刷科はオフセット印刷やオンデマンド印刷に切り替わり、録音速記科はトランスクリバラーを経てデジタルデータをもとに作業を行っている。

近年の印刷業界はデジタル化が進み、パソコンからダイレクトで刷版、印刷することが可能となり、積極的にそれらの機器を整備することで車椅子や麻痺がある障がい者が幅広く作業できる環境が整ってきた。また、製本機を更新し機器的な作業能力の向上を図った。



(3) 録音速記科

テープ起こしは国、県、市の会議、シンポジウム、審査会や、病院、大学などの講演会で収録された音声をワープロ原稿に文字データ化する。ただし単純に文字データにするだけではなく。その原稿が冊子になるのか、それとも裁判などの証拠（書証）になるのかで文章を作り分けている。前者は読みやすく、後者は音声に忠実に、である。

当施設の録音速記の強みは、名古屋市内なら無料で出張録音することである。また、お客様のご要望があれば会場の手配、案内状の発送、アンケートの集計などお客様にとって面倒くさいことや、過去に出版された冊子などドキュメント類のデジタル化。カセットテープのダビングやデジタルメディア化など今日的な仕事も行う。今後、さらに新しい提案をお客様にしていきたいと考えている。

(4) 部品加工科

手作業を中心とした仕事を、障害特性に合わせ提供し、仕事を通して責任感・連帯感・意欲・態度・生活力等を支援している。

前年度から行っている営業活動も少しずつではあるが効果（売上・仕事量）がでてきている為、次年度も引き続き営業活動を行っていく。

現在、54名の方が作業に携わり、多品種・大量品も高品質・納期を守りお客様に信頼される仕事をしております。また、今まで欠点であった機動力もトラックを導入する事により解消し、大型の商品も扱えるようになった。

今後は、より多く仕事提供ができるように機械化を進め、高い工賃に繋がるよう、より多くの企業等と連携をとりながら目指していきたいと考えている。



○生活介護事業

■定 員：20名／1日

■活動時間：10:00～15:00

■利用対象者：次の条件を満たす方

- ・名古屋市在住（原則）
- ・障害福祉サービス受給者証＜生活介護＞の交付を受けている方
- ・障害程度区分3以上（50歳以上の方は区分2以上）

「あたらしく集う場所、輝（ひか）る場所」をモットーにお菓子づくりやレクリエーション等さまざまな場を提供している。

■サービス内容

- ☐給食 ☐送迎 ☐入浴 ☐創作活動（書道、図画工作、ビーズ細工、陶芸）
- ☐社会適応訓練（買物訓練、調理訓練、歩行訓練）
- ☐機能訓練（体操、よさこい体操、マッサージ）
- ☐レクリエーション（麻雀、ゲーム、運動会、クリスマス会等）
- ☐その他健康相談・生活相談など

■今後の展開について

10代～80代の利用者が在籍し、身体機能にも差があるため、フロアのレイアウト変更をし、年齢や障害を問わない受け入れを目指す。

また、対象利用者の拡大につながるよう養護学校の実習生を積極的に受け入れていく。



○施設入所支援

旧法でいう入所型授産施設の経過措置として、21名（男性12名、女性9名）の障がい者が入所している。（平成23年3月31日現在）。障がい種別は、視覚障がい者12名、肢体障がい者8名、内部障がい者1名であり、うち障がい重複している者は4名である。入所者に対して、社会生活を営む上で必要となる生活技術の獲得ができるよう、自室の清掃、金銭の自己管理、体調管理などの支援を行っている。



2. ガイドネットあいさぽーと

○居宅介護等・移動支援事業

現状は視覚障害者の方への移動支援と盲学校の学校送迎を中心にサービス提供をしている。10月には同行援護が始まるので、そのニーズに応じていくためにガイド養成講座の開催してヘルパーを確保する。

3. かわな

○福祉ホーム

地域でのごく普通の生活を希望しながらも、家庭環境、住宅等の諸事情により、居宅において生活することが困難な障害者に対し、3年を限度として低額な料金で日常生活に適応するような居室その他の設備を提供し、必要な便宜を図ることを目的としている。

定員 15名 世帯用居室ー 1室(41.16㎡)
 単身用居室ー 13室(23.98㎡～29.7㎡)
 1Fー 3室(車椅子使用障害者向け 1室は世帯向け)
 2Fー 5室、 3Fー 6室

<利用料一覧>

単位(円)

区 分	非就労	福祉的就労	一般就労	備考
利用料 (賃料)	0	7,500	15,000	単身世帯
	0	12,500	25,000	夫婦世帯
共益費 (管理費)	5,000	5,000	5,000	単身世帯
	5,000	5,000	5,000	夫婦世帯
合計	5,000	12,500	20,000	単身世帯
	5,000	17,500	30,000	夫婦世帯

■22年度の利用状況について

地域移行促進のため、長期入居者に対して声掛け等を行った結果、昨年に引き続き、市営住宅当選者3名、一般住宅へ1名が移行。また今年度市営住宅に1名が当選した。



4. やすだ

○福祉ホーム

定員・・・11名

設備・・・10室（個室9室、2人部屋1室）

料金・・・ 家 賃 7,500円

共 益 費 5,000円

光熱水費 10,000円

合 計 22,500円



やすだ 居室内

■22年度の利用状況について

当施設は、入所施設から地域生活移行に向けての準備段階としての役割を担うことから、今後も個別に地域移行の計画に沿った住宅情報の提供、ヘルパー利用などの支援を行っていく。今年度は入所から2名移行することが出来た。

5. デイサービスセンター クリエイト川名

○地域活動支援センター

■定 員：19名／1日

■活動時間：10:00～15:00

■利用対象者：名古屋市在住の視覚障がいのある方

視覚障害者を主体とした地域活動事業として創作活動・社会適応訓練・レクリエーション等のサービス提供を行っている。H23年3月現在で登録者数30名。

■サービス内容

☐給食 ☐送迎サービス ☐手芸（編み物、ビーズ細工等） ☐サウンドテーブルテニス ☐陶芸 ☐カラオケ ☐音声パソコン ☐外出訓練 ☐調理訓練
☐レクリエーション（夏祭り、クリスマス会等）など

■今後の展開について

居心地のよい日常生活が送れるよう、歩行訓練・買い物訓練を定期的に行う。ボランティアを確保し新しい活動の提供ができるように努める。



6. 港ワークキャンパス

昭和23年3月

障がい者の自立を目指して製缶工場を始める

昭和58年8月

光和寮より分離独立、現在の港ワークキャンパスに

平成20年1月

障害者自立支援法による新事業への移行を行った

授産施設 → 障害者支援施設（入所支援・A型）

平成20年4月

就労継続支援多機能型（A型・B型）へ変更

入所部門は、福祉ホームに移行

KAN食品開発センターがB型として

光和寮から港ワークキャンパスの所属へ変更

平成22年9月

A型として国産こんにゃく食品加工工場を開設

《施設外観》



平成22年度は、就労事業収入が前年比107%となったものの、減価率の改善が進みきれなかった。しかし経費圧縮に取り組んだことにより、経営健全化の目処が見えてきた。また今期は乾燥粒こんにゃくの生産体制を整えるため、第二工場を日本財団から頂いた助成金により改装し、国産こんにゃく食品加工工場として稼動することができた。今後も新事業を軌道に乗せるとともに、老朽化している設備や機械などの修理・交換に十分な対応ができる体力をつけていきたい。

○就労継続支援A型 <国産こんにゃく食品加工工場>

レトルト食品加工及びコンニャク加工業務
を行っている。

（1）コンニャク加工業務

- ① 機械でコンニャクを結ぶ
- ② パック詰め
- ③ ボイル殺菌
- ④ X線異物検査



（2）レトルト食品加工業務

- ① 計量
- ② 真空パック
- ③ 商品に合わせた加熱殺菌
- ④ X線異物検査



○就労継続支援A型 <ライトハウス名古屋金属工場>



金属加工（主に製缶）事業を行い、雇用契約を結んで働く場として、様々な障がいがある方に仕事を提供し従業員一丸となって働いている。

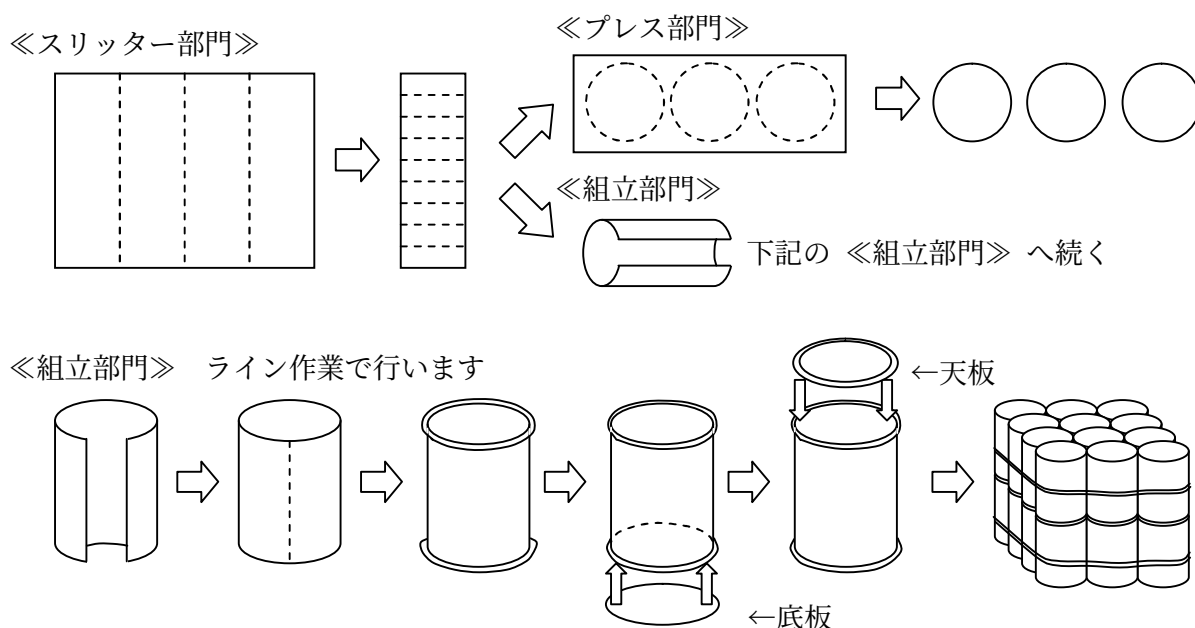
スリッター部門 … 材料の切断

プレス部門 … 部品を抜く

組立部門 … 缶の生産で構成されている。

缶の形も、丸型、角型、テーパ型など、バリエーションが豊富である。

障がいのある方が働きやすいよう製缶工程を細分化、作業中の移動を少なくしている。



《平成22年度の状況》

平成22年度、缶製品売上げの対前年比は110%で着地したが、原価率の改善はみられず、厳しい状況に変わりはない。新規大口取引先を得たが、その製品価格が安かったことが全体の原価率を上昇させた原因のひとつとなっており、平成23年度4月をもって、取引を中止する予定である。また毎年の鋼材価格値上げを嫌気し、多くのユーザーが容器変更を進めており、今後の工業用容器としての缶需要は減少に転じると考えられる。

よって、金属工場のみを就労の場と捉えず、より多くの就労機会を提供するため、閉鎖されていた第二工場を改装し、乾燥こんにゃく工場として9月に開設した。B型のこんにゃく事業で実績のあるサン食品株式会社請負先としてスタート。まずは生産量の安定と仕事量を確保するため、生産体制確立に取り組んでいるところである。

平成22年度末に発生した東日本大震災の復興事業の開始により、建築、公共事業等において、建築用接着剤の需要は大幅に上昇すると思われ、伴い缶需要も上昇をする。しかし、あくまでも特需であることから、平成23年度の金属工場は原価率向上を第一目標とし、収益改善に繋げて行きたい。

○就労継続支援B型 <KAN食品開発センター>

パンの缶詰は阪神大震災を機に保存食として生まれた。施設として障がい者が地域で自立して暮らしていくことを支えるためには、内職の延長に近い事業だけでは限界があり、新規事業を検討した結果、パンの缶詰に至った。従来の“パン生地を缶に詰めて焼く”製造方法ではなく、“焼いたパンを缶に詰める”製造方法を考案した。

《特徴》

- ☆ 1缶に2個入りで、焼きたての風味がそのまま
- ☆ 災害時、アウトドア、おやつ、贈答品にも最適
- ☆ ふっくら・やわらかなまま3年間の保存が可能
- ☆ チョコチップ味・レーズン味・ヨーヒナッツ味の3種類がある

《平成22年度の状況》

昨年度は従来から抱えていた様々な赤字要因の最終的整理を行い、今年度黒字体質を定着させることができた。また、黒字化への後押しとして利用者の受け入れを積極的に進め、受け入れ可能な人数近くまで利用者を増やすことができた。

平成23年1月より賞味期限を5年に変更したことから、新たに防災商社2社との取引や新たな販売エリア（宮崎・福岡・和歌山・浜松地区）及び販売チャネル拡大の為販売展示会への積極的参加等を進めている。また、従来の取引先の納入価格を含めた見直しを図り、利用者との相互理解を深め作業の効率化を進めることで賞味期限5年への体制作りを確立し、更なる利益確保を目指したい。

☆☆ 完成 ☆☆



《生地を丸める作業》



《焼いたパンの缶詰め作業》



《再度オープンへ》



《ラベル貼り作業》



7. みなど

○福祉ホーム

地域で普通に生活したいと思いながら家庭環境、住宅などの事情によって、地域での生活ができない障がいのある方に部屋や設備を提供している。

《対 象》

- ☆主に当法人で就労している方
- ☆共同生活をおくる上で支障がない方
- ☆掃除、洗濯、I A D Lが自立している方

《設 備》

単身用居室20室

《料 金》

施設利用者	家 賃	7, 5 0 0 円
	共 益 費	5, 0 0 0 円
	光熱水費	1 0, 0 0 0 円
	合 計	2 2, 5 0 0 円

《居室》



《食堂》



《平成22年度の状況》

平成22年度は、前年度に行った全面的な改装の効果もあり、入居希望者が増加した。新規入居者獲得に向けて、現在調整を続けているところである。また、福祉ホーム入居者2名が地域の市営住宅へ移行し、一人暮らしを始めた。福祉ホームにおいて住まいの場が必要な利用希望者を獲得し、同時に地域移行も推進することで、地域での一人暮らしのための準備の場としての機能も強化していきたい。

8. 明和寮

昭和54年11月

名古屋市初の重度身体障害者授産施設を開所
平成20年1月

障害者自立支援法に伴い、新事業体系へ移行
就労継続支援事業（B型）「ビーサポート」・
就労移行支援事業「港ジョブトレーニングセ
ンター」・生活介護「ぷちとまと」を開設。

平成20年4月

入所部門の一部が福祉ホーム「あかり」とし
て再編。黎明荘は通所ホームから福祉ホーム
として再編され、それぞれ事業開始。

《施設外観》



○就労移行支援事業＜港ジョブトレーニングセンター＞

港ジョブトレーニングセンター（就労移行支援事業） ご案内

～ 就職を目指すあなたに・・・ ～

就職・再就職したい

就職活動を手伝ってほしい

働いた経験はあるが、人間関係でつまずき辞めた

働いた経験がなく、自分に合う職場がわからない

現在在学中、卒業後には就職にチャレンジしたい

- ・技能・・・製造・加工系、事務系、生活系などいろいろな作業体験をしましょう。
- ・基礎講座・・・どこで働くとしても必要なルール・マナーを講義・演習しましょう。
- ・ビジネスマナー講座・・・履歴書作成や面接練習など、就職活動に必要な準備をしましょう。



おまかせください

港ジョブトレーニングセンター
（就労移行支援事業）

港で見つけよう

新しい自分

明るい未来

■訓練生受入から就職

①相談受付→②来所していただき現状をお聞きする→③エントリー→④アセスメント（聴き取り、作業評価）→⑤個別支援計画の作成→⑥契約→⑦支援開始→⑧訓練導入期（2～3ヶ月）：環境への適応、特性の把握→⑨訓練中期：課題の整理、アプローチ、求職活動準備→⑩訓練後期：具体的求職活動→⑪採用→⑫定着支援

開設当初、定員12名だった本事業は、皆さんの『働きたい』という強い想いと声に後押しされる形で、21年度より15名へ定員枠を拡大し現在に至っている。

本事業の目的である『就職』。これを目指し、障がい者就職面接会や名古屋市企画の企業見学会・面接会へも積極的に参加、幅広く就労イメージを膨らませ利用者の就労意欲を高めると共に、模擬職場を想定した施設内外における訓練や実習を通じ、就職への可能性を追求している。これらの活動の積み重ねを経て、22年度末までの成果として、一般企業への就職者14名を数えるに至っている。



本事業には制度上2年間という利用期限が設けられているわけだが、ここ暫く続いている不況の煽りもあり、作業能力はあっても求職活動が思う様に進まないケースも少なくない。一般企業だけでなく就労継続支援事業所の情報収集にも努め、当センターの利用を終えてからも安心して就労できる環境を提供できるよう、引き続き支援を行なっていきたい。

○就労継続支援事業B型＜ビーサポート＞

（１）改修・機器整備について

今期の改修工事として、B棟2階トイレの改修を行う。衛生面の改善や車いすトイレを2つにするなど、使い勝手の良さを追求した設計となっている。（9月）

機器整備として、印刷事業で、日本財団の助成金（助成金額500万円）を利用し、製本機器（自動無線綴機）の整備を行う。（10月）以前使用していた無線綴機の老朽化による入れ替えに併せ、安全性の向上、環境的改善の見込める機器の導入が行なえた。



（２）各事業の動きと結果

《印刷事業》

冊子を得意分野として、チラシ、ポスター、封筒、はがき、名刺など様々な印刷業務を手掛けている。また、手書き原稿からのデータ作成はもちろんのこと、さまざまなデザイン作成も編集部門が請け負っている。

主要取引先としては名古屋市役所、名古屋市社会福祉協議会、愛知県社会福祉協議会などが、民間企業、個人の方々からも受注している。

これまでも付属する作業として封入作業や発送業務を請け負ってきたが、それに加え、今期よりCD・DVDへのデータおこし、複製など特殊な業務も始めている。



《印刷事業》

《組立加工事業》

視覚障がい者の多い部署ではあるが、そのハンディを感じさせない機器（熱圧着ブリスター）を配置するとともに、障がい特性に合わせたラインを組むことによって効果的な生産を可能にしている。また、独自で開発したオリジナルのインサート機導入により、付随する組み付け工程も含め一連の作業の受注が可能となった。そのほかに売上・作業量確保のためのさまざまなアセンブリ作業を展開している。



《組立加工事業》

《自動車部品事業》

20年以上続いている自動車のエンジン部品の組み付けを中心に、自動車のフロントグリルの部品の取り付け、アセンブリ、グローブボックスの組み付けなど様々な自動車関連の作業を展開している。

そんな中、自動車部品以外にもガス給湯器に必要なヒーターにバネを取り付ける作業が増えてきており、一つの大きな柱となってきている。

この作業に関しては、内部だけではなく、他の作業所にも協力していただき、生産数を上げて、当事業で一元管理をすることで、付加価値を付けている。



《自動車部品事業》

《包装加工事業》

障がい者施設ではほとんど見られない真空成型でのプラスチック加工を行っている。

PET・PP・PE・PS・PVCなどさまざまな材料から部品トレイやパッケージ用のブリスターパックを生産している。2面の大プレス機2台（1台は貸与）とスライドブリスター機7台（4台は貸与）により、成型後の抜き作業から曲げ加工まで行うことが可能である。

今期末には2台あった成形機のうち、かなり老朽化した1台を処分。生産量は減ることになったが、作業スペースが確保されたことと、1台でフル生産できるようになったため、安全性・効率はかなり向上した。



《包装加工事業》

○生活介護事業＜ぷちとまと＞

在宅の障がいを持つ方に、外出の機会や人との交流、社会参加の機会や趣味、創作等、充実した日中活動ができるよう支援を行っている。それらを通し「楽しい時間」「小さな充実」「自分の居場所」「くつろげる空間」を提供。

22年度末現在18名の方が登録。年齢、障がい程度・種別も様々である。

個人個人ができること、やりたいことに取り組んでいただいている。

《勤務体制》

(1) 職員配置5名 生活支援員3名 看護師2名

(2) 開所時間 10:00～15:00

《日々の活動内容》

■日常生活支援

- ・昼食 個々の食事形態、状況に合わせた形で提供。食事介助の実施。
- ・送迎 港区及び熱田、中川区の一部。
- ・入浴 ボード浴及び個浴にて対応、可能な範囲で相談に応じる。
- ・排泄 介助、おむつ交換等、随時対応。
- ・各種レクリエーションの提供（別記）
- ・その他（バイタルチェック、足浴、体重測定等）



《棒を使いサッカーゲーム》

《レクリエーション等の活動》

- ・全体での取り組みとして、風船バレー、散歩、買い物、園芸、お菓子作り、創作活動（季節の壁画、飾りつけ作り）などを行っている。
- ・個人、または小グループでの取り組みとして、パソコン、インターネット、カードゲーム、卓上ゲーム、ジグソーパズル、ビーズアート等、本人の希望に合わせて行っている。
- ・季節行事として、花見、七夕祭り、スイカ割り、遠足、クリスマス会等を実施。
- ・レクリエーションへの参加や、過ごし方は基本的に自由。本人の希望や障がい状況、体調に応じ、個人のペースで過ごしていただく。



《花見にお出かけ》

○施設入所支援

いわゆる旧法が定める身体障害者授産施設（入所）から、障害者自立支援法が定める日中活動の場と施設入所支援に移行した関係上、当施設の就労継続支援事業B型（ビーサポート）を利用する人が経過的に入所している事業である。経過的な事業のため、制度上の職員配置は宿直のみとなっている。

現行の障害者自立支援法が変わらなければ、平成23年度末には就労継続支援事業B型との利用（併用）ができなくなるため、それまでに福祉ホーム化する方向で準備を進めている。移行にともない、利用者、家族と面談の上、福祉ホーム利用希望者が多かったことから 県、市と協議の上、平成23年4月1日に施設入所支援定員30名、福祉ホームの定員31名として計画を一部前倒しして移行することとなった。

明和寮のすべての事業に関連し、主に生活部分の支援を行う「生活支援」「生活支援・介助（寮父母）」「看護」「給食」の各部門がある。

施設入所支援利用者にのみサービスを提供しているわけではないが、紙面の関係上、施設入所支援として整理し、各部門の業務、状況を以下にまとめる。

（1）生活支援（3名体制、8:20～19:00）

利用者個々の生活相談支援、地域生活移行支援、入退所業務、老人ホーム等他施設への移行支援、利用者と市町村・関連機関・家族等の連絡調整・相談、社会資源などに関する情報提供、受給者証など各種手続きの支援・代行業務、ボランティアの受入・調整などの業務を行っている。

（2）看護（2名体制、9:00～18:00）

利用者の健康維持・管理に関する支援、医療機関との連携や家族との連絡調整、身体的・精神的状況の把握と対応、情報管理等の業務を行っている。また、健康管理の自立に向けての支援にも力を入れている。

（3）生活支援・介助（寮父母）（2名体制、7:00～19:30）

利用者の日常生活支援（食事準備・清掃・ゴミの収集・入浴準備・ふとん干し・シーツ交換・その他依頼事）や相談業務を行っている。

また、障がいの進行や加齢に伴う身体機能の把握、安全に生活できるような環境の配慮にも努めている。

（4）給食

給食は、365日の朝・昼・夕を提供している。食事の種類は、常食の方を主として、糖尿・腎臓・透析食などがある。

特徴として、月に1度のパン・ご飯の選択や主菜の選択を行うなど、家庭に近い手作りで安全・安心な食事の提供に努めている。

9. みなとガイドネット

○居宅介護等・移動支援事業

平成15年4月1日に事業開始して丸7年。
ヘルパーが自宅まで訪問し、通院介助や買い物の付き添いなどの支援をし、港区在住の障がいのある方の社会参加や自己実現を応援している。また、個人的に1泊など泊まりの旅行にも応じている。

《サービス提供日は毎日。「安心」「安全」「満足」をモットーにがんばっています。

(但し12月30日～1月3日は休業)

時間は8時～18時ですがその他の時間は相談に応じます。》



4月 荒子川花見にて



5月 掛川花鳥園にて



6月 油ヶ淵菖蒲園にて

10. 黎明荘・あかり

○福祉ホーム

《運営方針》

福祉ホームあかり、黎明荘ともに、身体に障がいを持つ方に対して、自立を目的として3年の期限を設け、低額な料金で居室やその他の施設を提供している。

《入居対象者》

- ・主に当法人で就労している方
- ・基本的に、ADLの自立している方。ヘルパー利用で対応できる方も入居可。

■黎明荘

定員・・・10名

設備・・・5戸(2DK、個室10室)

料金・・・家賃 7,500円

共益費 5,000円

合計 12,500円



黎明荘 居室内

※ 光熱水費は使用した分を支払う

■あかり

定員・・・20名

設備・・・17室（洋室6室、和室11室）

料金・・・家賃 7,500円

共益費 5,000円

光熱水費 10,000円

合計 22,500円



黎明荘 居室内

《平成22年度の状況》

地域生活に移行される方が1名退居された。

平成23年3月末時点では、ヘルパー利用はあかりが15名中11名、黎明荘は5名中5名であった。清掃などの間接支援だけでなく身体介護の利用の需要が増えた。



1 1. 港区障害者地域生活支援センター

○指定（委託）相談支援事業＜K i r aらぼーと＞

平成14年7月より明和寮が名古屋市からの委託を受け、事業を開始し、本年度4月からは相談支援機能強化員として1名が加わり4人体制となった。

支援内容は、身体・知的に障がいのある方やそのご家族が住みなれた地域で、より豊かな生活が送れるよう、訪問・外来での総合的な相談支援を行っている。

福祉制度の情報提供、福祉サービス利用の援助、ピアカウンセリング、サービス利用計画の作成などを行い、地域で暮らす障がい者・児を皆で支えていく仕組み作りを目指している。



《施設外観》

《平成22年度相談実績件数》

訪問相談：892件 外来相談：2447件 協議会等の開催：46回

■訪問相談支援には申請代行、他機関との調整、個別支援会議(年39回)なども含む。外来相談支援には電話・電子メール等も含む。

相談者は年間で367人。相談件数は、訪問・外来合わせて昨年度よりが700件ほど増加し、年々相談件数は増加している。個別支援会議は年間39件。相談内容は、①支援者との関係がうまく作れず安定した支援を継続することが難しいケース、②金銭管理の問題など権利擁護に繋ぐ支援が必要なケース、③入所・入院から退所・退院へと地域移行に向けた、居住場所探し・在宅生活を支えるためのサービス調整、④介護者が高齢となってきたケース、⑤家族支援が必要なケースなど、継続的な相談支援や他機関との連携が必要なケースが増えているため、定期的な相談支援に力を入れている。

地域課題の協議、個別のケース検討、ネットワーク作りを目的とした港区障害者地域自立支援協議会（定例会3回、研修会1回）を開催。また、研修部会・就労部会・ケース検討部会と各部会を定期的に開催することで地域課題の抽出を行い協議会への報告を行っている。

また今年度からは「地区別啓発活動」として地域住民を対象とした講演会を開催し、地域住民の障がい理解推進のための活動を3カ年計画で行っている。

他、サービス利用計画作成（3月末 契約者14人）、障がい程度区分認定調査(年間182件)、名古屋市賃貸住宅入居等サポート事業、障害者自立支援配食サービス受付窓口などの業務を行っている。

1 2. 地域活動支援センター あちえっとほーむ

○地域活動支援事業

平成19年6月に新事業として開所して以来、順調に利用者は増えており、3月末で90名

の登録があり、一日平均利用者数は約16名で半日利用など様々な利用ニーズに対応している。

創作的活動の場や交流の場を提供することにより、社会参加の促進と地域住民への障がい理解に努め、地域生活支援を充実させるというこの事業の目的を受け、障がいのある方のデイサービスとしてパソコンや料理クラブ、手芸、音楽療法、太極拳、点字、視覚障がいパソコン、ビーズ、おかしクラブ、卓球、麻雀など様々な趣向に合わせた講座を実施している。講座以外にぬり絵や折り紙・学習ドリルなどの自由活動も行ってきた。様々な支援活動を通じて社会参加やピア交流の場、やすらぎの場所として、次へのステップをかなえるための力添えを目指している。

利用者として来所していた人がパソコン講座でスキルを身に付け、ボランティア講師として活躍され、生活リズムを整えて就職に繋がったケースもあった。



13. わくわくキッズ

○児童デイサービス

平成19年の開所から3年が過ぎ、利用者も増え4月で24件、3月には契約数が32件、月間利用延べ回数207回、1日平均利用者数は定員10名に対して10.2名となった。わくわくキッズの方針である、すべての利用者が満足できる活動内容を行うこと、そして職員全員が問題を共有し、前向きに解決する姿勢を念頭に、＜ひとりひとりを大切に＞＜成長発達への援助＞＜自分でできることが増えるように＞のねらいを基本に取り組んできた。



利用者の障がい別では知的ダブル障がい16名（重心・全盲含）、身体2名、知的障がい14名（自閉6名・ダウン2名）である。この1年どの子も仲間としてのかかわりも深まり、昨年より始めた親子のバスツアーも多くの参加者で賑わい、今年度も活動の中に取り入れ、夏の行事を増やして、楽しく毎日を送っている。

V その他の活動について

1. 東部施設

利用者、職員の親睦会を中心として季節に応じた行事を企画、実施している。
開催した行事の中から幾つかを紹介する。

月 日	行 事 名
7月30日（金）	夏祭り
9月10日（金）	親和会 旅行
10月23日（土）	名古屋ライトハウス物故者慰霊祭
11月13日（土）	地域交流フェスティバル
12月24日（金）	クリスマス会
12月29日（水）	納会

○親和会旅行

9月10日（金）

残暑続く晴天の中に、100名を超える職員・利用者で日本昭和村に出かけた。



○地域交流フェスティバル

11月13（土）

広路学区地域連絡協議会の協力を得て、地元の方々に当施設の紹介、利用者と地域の皆様との交流の場を毎年開催している。



○クリスマス会

12月24日（金）

利用者が中心となり、企画・開催する行事となっている。今年度は外部からお招きしたフルート演奏が披露され、楽しい時間を過ごせた。



2. 西部施設

○行事

<内部での行事>

月 日	行 事 名
4月 6日	花見
10月23日	名古屋ライトハウス物故者慰霊祭
12月22日	もちつき
2月 5日	お千代保稲荷
3月12日	ボランティア協力食事会

<外部行事に参加>

月 日	行 事 名
5月 9日	名古屋市障害者スポーツ大会（陸上の部）
5月22日	ウェルフェア2010
8月29日	名古屋市障害者スポーツ大会（水泳の部）
10月24日	港区障がい者と区民のふれあい広場
11月21日	名古屋市障害者スポーツ大会（ボーリングの部）
11月28日	名古屋市障害者スポーツ大会（卓球の部）
1月22日	福祉の店



スポーツ大会（陸上の部）



花 見

○クラブ活動

親和会（親睦と福利を目的として職員・利用者が任意に加入する組織）の中でクラブを作り、自分達のやりたいことを自発的に行っている。

将棋クラブ	書道クラブ	詩吟クラブ	カラオケクラブ
切り絵クラブ	スケッチクラブ	陶芸クラブ	手芸クラブ
卓球クラブ	吹き矢クラブ	フラワークラブ	名曲クラブ
ゴロバレークラブ			

Ⅵ 名古屋ライトハウスの沿革

昭和 21 年 10 月	盲人の自立更生と福祉増進をめざして片岡好亀、近藤正秋が中心となり愛知県盲人福祉協会を設立
昭和 22 年 8 月	鍼灸共同治療所および愛盲ホーム光和寮を開設
昭和 23 年 7 月	盲人の新職業開拓を合言葉に、金属作業部（製缶）を設立 点字出版の事業を開始 社団法人愛知県盲人福祉協会となる
9 月	聖女ヘレン・ケラー女史来所
昭和 27 年 5 月	社会福祉法人に組織変更し、第一種身体障害者授産施設となる
昭和 32 年 8 月	名古屋ライトハウスと改称
昭和 33 年 9 月	身体障害者福祉法による民間委託授産施設となる
昭和 38 年 12 月	あけの星声の図書館事業を開始し併せて点字出版所を新設
昭和 41 年 4 月	あけの星声の図書館、厚生省指定図書館となる
6 月	市内八事霊園に施設関係者共同墓碑建立
昭和 54 年 11 月	重度身体障害者授産施設「明和寮」開設
昭和 55 年 4 月	既存の身体障害者授産施設を「光和寮」と呼称 同時に、あけの星声の図書館を名古屋ライトハウス図書館と改称
昭和 58 年 8 月	身体障害者授産施設「港ワークキャンパス」光和寮金属作業部より分離独立開所 身体障害者通所施設「黎明荘」を開設
平成 元年 5 月	特別養護老人ホーム「瀬古第一マザー園」、養護盲老人ホーム「瀬古第二マザー園」、「瀬古マザー園デイサービスセンター」、ふれあいセンター「瀬古平成会館」開設
平成 3 年 5 月	図書館を移転「名古屋盲人情報文化センター」と改称
平成 6 年 4 月	「光和寮」を重度身体障害者授産施設に変更し、入居棟・作業棟新築
平成 7 年 4 月	身体障害者デイサービスセンター「クリエイト川名」、身体障害者福祉ホーム「かわな」新設
平成 8 年 10 月	創立 50 周年を記念して新しいシンボルマークを設定
平成 12 年 4 月	介護保険法施行に伴い「瀬古マザー園指定居宅介護支援事業所」開設
平成 13 年 11 月	港区に法人本部事務局を開設
平成 14 年 7 月	「港区障害者地域生活支援センター Kira らぽーと」開設 名古屋ライトハウスにおいて、ISO9001(2000 版)を認証取得
平成 15 年 4 月	身体障害者居宅介護等事業「みなとガイドネット」開設
8 月	高齢者通所介護事業所「矢田マザー園デイサービスセンター」開設
平成 16 年 6 月	身体障害者居宅介護等事業「ガイドネット あいさぽーと」開設

平成18年 3月	光和寮「KAN 食品開発センター」開設 パンの缶詰「パンですよ！」販売開始
4月	法人本部事務局を光和寮へ移設
10月	創立60周年を迎え、記念誌の発行や記念式典、記念コンサートを開催 障害者自立支援法に伴い、身体障害者デイサービスセンター「クリエイト川名」が生活介護事業所「デイサービスセンタークリエイト川名」として新事業体系へ移行
平成19年 7月	地域活動支援センター「あちえっとほーむ」、児童デイサービス「わくわくキッズ」を開設
平成20年 1月	障害者自立支援法に伴い、光和寮・明和寮・港ワークキャンパスにおいて新事業体系へ移行 明和寮 就労移行支援事業・就労継続支援事業（B型）・生活介護を開設 光和寮 就労継続支援事業（B型）・就労移行支援事業を開設すると共に生活介護事業所「デイサービスセンタークリエイト川名」を統合 港ワークキャンパス 就労継続支援事業（A型）を開設
4月	明和寮入所部門の一部が福祉ホーム「あかり」として再編、黎明荘は通所ホームから福祉ホームとして再編され、それぞれ事業開始。港ワークキャンパス入所部門が福祉ホーム「みなと」に、KAN食品開発センターが港ワークキャンパス就労継続支援事業B型として再編され事業開始。これに伴い、港ワークキャンパスは障害者支援施設から多機能型事業所となった。
平成21年 4月	光和寮施設入所支援事業の一部を福祉ホーム「やすだ」として再編、光和寮生活介護を分化し、新たに地域活動支援センターを「デイサービスセンタークリエイト川名」の事業所名で開設
平成22年 1月	平成23年4月の開設に向け、名古屋市中川区富永に新たな生活介護事業施設 戸田川グリーンヴィレッジ(仮称)の建設を開始
平成22年 9月	港ワークキャンパス第二工場を改装し、就労継続支援A型の従たる事業所として国産こんにゃく食品加工工場を開設
平成22年12月	名古屋ライトハウスが、名古屋市千種区にある障害者通所授産施設 名古屋市緑風荘の事業譲渡先として決定
平成23年 3月	戸田川グリーンヴィレッジ竣工を迎える ISO9001の認証を返上 独自のマネジメントシステムで進むこととなる